

令和元年度 狭山市立御狩場小学校 学校関係者評価 報告書

1 本年度の重点目標

- ①学力の向上・学校研究(算数科)を中心に学びの成果を上げる。・基礎基本の定着(提言7) 学びを実感(提言6)
- ②豊かな心と規律ある態度・基本的生活習慣の確立にチームで向き合う。・主体的活動での自己肯定観の育成。
- ③体力の向上 健康教育の推進・新体力テストの結果向上・防衛体力の向上で元気に学べる体づくり。

2 本年度の経営方針

目指す学校像： わかる力・かかわる力・きたえる力を育む学校
夢に向かって元気よく(家庭・地域とともに)

3 評価結果

達成状況 A:達成している B:概ね達成
C:やや達成不十分 D:達成できていない

評価領域	No.	評価項目(重点目標)	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			達成状況	説明・改善の方策	
経営方針・ 組織・ 教職員	1	○子どもを知り、よさを引き出す 教育活動 (児童が学校に楽しく通える。) 共学・共遊	A	アンケートにおいて、児童は90.5%、保護者は91.3%が「学校に楽しく通えている」と答えている。Q-Uテスト等も活用しながら、さらに一人一人が意欲的に学校生活を送り、学級集団や友人関係に満足感を持てるようにしていきたい。	・校長先生教頭先生を中心に、一体となって進めていこうという先生方の意識、雰囲気を感じる。 ・小規模校の長所を生かして、縦割りの活動が良くできていると思います。 ・高学年の子供たちの成長が、目に見えてわかります。
	2	○子どもとともに活動する教師 (清掃、遊び) 共働	A	清掃指導や時刻を守るなど、職員が率先垂範を意識し行動している。スマイリータイムなど児童とともに行動することを心がけることができた。	・否定的意見の児童に着目し、対応していただけるようお願いいたします。 ・教職員が模範となる行動をされることは大変すばらしいと思います。ぜひ特定の場だけではなく、常に意識していただけるようお願いいたします。
	3	○効率的な校務運営で 教職員の健康推進 効率的効果的な会議、研修の推進	A	職員数の減少に伴い、余分な会議は減らし、全体で一度で確認できるようにした。在校時間調査において、月間の時間外勤務時間が80時間を超える教職員は、ほぼ0になった。	・先生方は、いろいろと工夫されて授業を組み立てられていると思う。 ・学力の定着や意欲に関して、4年生が一つのポイントだと思う。茶レンジスクールの有効活用や日頃の指導体制について、再度見直しをお願いいたします。
	4	○組織的な教育活動 学年組織・教科等部会組織を活かす	A	分掌主任のリーダー性が発揮され、協働の場が多く、それらは児童の活動や掲示物など目に見える成果となった。	・高学年では、基礎基本の定着も大切であるが、より発展的な問題にも取り組めるといいと思います。
	5	○『見通し・見届けの教育実践』 先を見通した計画、目標の明確化 活動の見届け、評価	B	教育計画の実施状況を定期的に確認し、計画の見直し・変更をして充実を図った。 ・教職員アンケート実施(年2回) ・保護者アンケート実施(年1回) ・児童生活アンケート実施(年2回)	・一クラスの人数が多い高学年や、一斉指導で理解が難しい場合には、ぜひ補助をつけていただきたい。
【重点】① 自ら学ぶ子 学力の向上	6	○日々の授業の充実 ねらいを明確にした授業 言語力の育成 (まとめを自分の言葉で)	B	保護者アンケート「学校(教員)は、わかりやすい授業に努めている」では、92.2%が肯定的な評価であった。 算数科の研修を通じて、授業のまとめ、振り返りを確実にできるよう、授業改善に取り組んでいる。	
	7	○基礎基本の確実な定着 国語定着度確認 (90点以上の児童の割合) 算数定着度確認 (90点以上の児童の割合) 1年:80% 2年:70% 3年:60% 4~6年:50% 最終 全学年95%以上	B	最終的に、90%以上の正答率の割合は目標値に到達できなかった。 基礎基本の確実な定着のため、学力向上プロジェクト教員を中心に、授業における「みかしばスタイル」の確立に向けて、取り組んでいる。	
	8	○学習意欲の向上 個に応じた指導・支援の充実 ○〇チャレンジの充実	B	児童アンケート「学校の勉強はよくわかる」の結果 1年:88% 2年:98% 3年:93% 4年:81% 5年:89% 6年:88% 全体:90% 学年により、ばらつきがあるので、原因を分析し、改善の手立てを講じていく。	

【重点】② 仲よくする子 豊かな心と 規律ある態度	9	○人権意識の高揚を図り、いじめ・不登校の解消 丁寧な言葉遣い・温かい言葉かけ	B	教師が率先して言葉遣いや温かい言葉かけを実践するようにしている。保護者アンケートにおいては、肯定的評価が89.9%と若干低かった。今後も継続して指導していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば、児童アンケートと保護者アンケートの回答を関連させ、学校だけでなく家庭で問題解決できないか、ご検討ください。 ・他人を傷つける言葉については、学童でも指導しています。
	10	○自他を尊重する温かい心の育成 道徳授業の充実・全校公開 本とのふれあい	A	12月の第2土曜日に全校で道徳の授業を公開した。しかし、参観率が低く(36.6%)家庭と連携できるよう工夫した取組が必要。心の育成に関する保護者アンケートでは、90.8%が肯定的な意見だった。図書ボランティアさんのご協力で、図書室が格段に整備され、本に親しむ環境ができた。	
	11	○規範意識と順法精神の育成 授業規律、基本的生活習慣の確立 まじめな生活態度の確立	A	授業規律の確立に向けては、全教職員で取り組んでいる。全校で共通理解共通行動が図れるよう、常に全職員で確認を行ってきた。	
【重点】③ たくましい子 体力の向上 健康教育の推進	12	○体力の向上 運動量を確保した体育授業の展開 業間運動の充実、外遊びの奨励 体力向上奨励種目への取り組み・検証	A	新体力テストでは、78/96の項目で県平均を上回ることができた。(昨年度67) 体力ランクも「A+B」「A+B+C」の割合とも、県の目標値を上回った。 体育の授業を充実させ、運動量の確保に努めてきた。また、業間運動では、マラソン・ドッジボール・縄跳びなど、児童が進んで運動に取り組めるような環境作りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすこと、外に出て遊ぶことの好きな児童が増えたように思います。 ・体力は何より健康の基です。引き続き活動の推進をお願いします。 ・朝食を食べていない児童への注意、対応をお願いします。
	13	○健康教育の推進 食育の推進 虫歯予防の推進	A	食育指導を全学年で実施した。児童アンケートにおいて、朝食の摂食率は95%であった。 虫歯予防については全校で指導を行った。(永久歯の未処置者2人)	
【基盤】① 連携・協働	14	○ひらかれた教育活動 学校応援団 小中連携、幼保との連携	A	学校応援団の支援で、充実した教育活動が展開できた。(保護者アンケートでも、94.4%が肯定的な意見だった) コーディネーターさんの負担を少しでも減らせるよう、学校の協力体制を整えていく。 体験入学や交流給食・小中での学習規律の統一など、幼小及び小中連携の充実を図った。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団として、学校から依頼されることについて、自治会、地域の皆様、保護者がとても協力的なので助かっています。 ・公民館で協力できる部分がありましたお知らせください。また、公民館事業へのご協力もお願いします。 ・教育委員会や生涯学習の部署で、保護者として子供への向き合い方についてたくさん発信していただきたい。
	15	○家庭との協働 学習習慣の確立 忘れ物をなくす 保護者の参加機会の拡充	B	家庭学習の充実のために「家庭学習のてびき」を全家庭に配布し、学年別に目標時間を設定して取り組んだ結果、どの学年も平均が目標時間を超え、定着しつつある。 授業参観の平均参加率78.2%、昨年度とほぼ同じ、懇談会の出席率56.6%で昨年度より5ポイント減少してしまった。しかし、保護者アンケートの回収率は97.7%で、保護者の関心や協力の意識が高いことがわかる。	
	16	○地域との連携	A	学校応援団を中心に、自治会や民生委員の皆様にご協力をお願いしている。また、登下校の見守りを毎日行ったり、安全な登下校に寄与していただいている。	
【基盤】② 安全・安心	17	○施設設備の安全確保 (安全点検)	A	日常の安全点検の実施、危険箇所への速やかな対応に努めた。 安全に関する保護者アンケートでは、A評価が61.4%で、昨年度より6ポイント向上した。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を通じて、先生方が前向きに取り組んでいく姿勢の変化が見られます。 ・子供たちも、自分で状況判断して避難訓練に参加できるよう指導してください。 ・災害に対する予防の第一は日頃の訓練だと思います。今後も継続した取組をお願いします。
	18	○清掃指導の徹底	B	取り組みを始めて3年目となった縦割り清掃はだいぶ定着してきた。児童・職員で共働で取り組むことができている。	
	19	○安全・防災教育の充実 (危険予測能力) 「自分のいのちは自分で守る」の徹底	A	避難訓練では、毎回防災士を招き、指導を受けている。今年初めて、防火扉が閉まっている想定で避難訓練を行った。 交通安全教室・避難訓練などを通じ、「自分の命は自分で守る」意識を常に指導している。	
	20	○危機管理体制の整備 地震発生時の対応、不審者への対応等 危機管理体制の見直しと充実 緊急メールの態勢整備	A	一斉下校の集合隊形を見直し、いつでも速やかに対応できるようにしている。 年度当初に、危機管理マニュアルの確認と各自の役割を確認した。 緊急メールの登録率は100%達成した。	